

(款) 20衛生費 (項) 10清掃費 (目) 15し尿処理費

◎処理の経費

し尿処理事業

【 深沢クリーンセンター 】

【総合計画上の位置づけ】

都市環境を保全・創造するまち

生活環境:環境にやさしい省資源・循環型社会を実現しているまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 公共下水道に接続していない全ての汲取りし尿と浄化槽汚泥の適正な処理のため。

効果 生活環境の保全及び公衆衛生が図られる。

【事業の内容】

(1) し尿処理事業

・し尿及び浄化槽汚泥の放流処理施設の運転及び維持管理を行った。

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
17,088	16,615	15,948		667

主な支出内訳

・し尿処理事業

薬剤等消耗品費	2,538
施設用維持修繕料	8,833
残土処分業務委託料	156
脱臭用活性炭交換作業委託料	3,509
オーバースライダー定期点検等委託料	91

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 環境-25 し尿処理事業 □支援部門						
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	579 し尿化学処理事業					
主管課	深沢クリーンセンター	関連課	資源循環課・環境施設課				
分野名	生活環境						
目標 (目標値)	環境衛生保持のため、し尿及び浄化槽汚泥等を受入れ、適正に処理する。						
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考		
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日		
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯			
運営資源 状 況	決算値	15,948千円	14,057千円	16,103千円			
	(国・県)						
	(負担金等)	5,362千円	5,111千円	980千円			
	(一般財源)	10,586千円	8,946千円	15,123千円			
	人員配置数	4.0人	4.0人	4.0人			
	人 件 費	35,149千円	35,698千円	35,720千円			
協働の パートナー	委託・許可業者	委託・許可業者	委託・許可業者				
事務事業 運営経費	総事業費	51,097千円	49,755千円	51,823千円			
	市民1人当 りの経費	290円	283円	296円			
	対象者1人 当りの経費	—	—	—			
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価							
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※		
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)	
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(25年度)
各種規制基準の遵守	◎	目標値	100%	100%	100%	100%	100%
		実績値	100%	100%			
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
指 標	評 価	年 度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(年度)
		目標値					
		実績値					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している							
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)							
団体名							

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) 処理設備が老朽化しており、突発事故等を防ぐ、より適切な維持管理が必要となっている。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) 処理設備に対し、適正な維持修繕を実施し、安定した下水道放流ができた。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) 耐用年数を超えている設備があるため、順次更新し、施設の機能を確保する。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) 事故が発生しないよう修繕計画を立て、適切な維持管理に努める。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	し尿の下水道放流を行う重要な施設であることから、現状の施設機能を維持していきます。				
担当課長氏名:		深沢クリーンセンター所長 原山 博			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	廃棄物処理施設整備の将来計画を見極めながら、安定したし尿の下水道放流を継続するための適正な維持管理に努めていきます。				
担当部名	環境部	部長名	勝山 洋		